

大豆管理情報（第2号）

令和8年7月15日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

（1）気温

5月下旬の平均気温は、21.8℃（対平年差+2.8℃）と平年に比べかなり高かった。

6月の平均気温は、22.4℃（同+1.0℃）と平年に比べ高かった。

7月上旬の平均気温は24.9℃（同+0.7℃）と平年並であった。

（2）降水量

5月下旬の降水量は、35.5mm（対平年比98%）と平年並であった。

6月の降水量は、129.5mm（同75%）と平年並であった。

7月上旬の降水量は、59.5mm（同64%）と平年並であった。

梅雨入りは、6月20日（前年5月22日、平年6月11日）と平年に比べ9日遅かった。

（3）全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、18.4MJ/m²/日（対平年比96%）と平年並であった。

6月の平均全天日射量は、19.0MJ/m²/日（同110%）と平年に比べ多かった。

7月上旬の平均全天日射量は、19.3MJ/m²/日（同125%）と平年に比べ多かった。

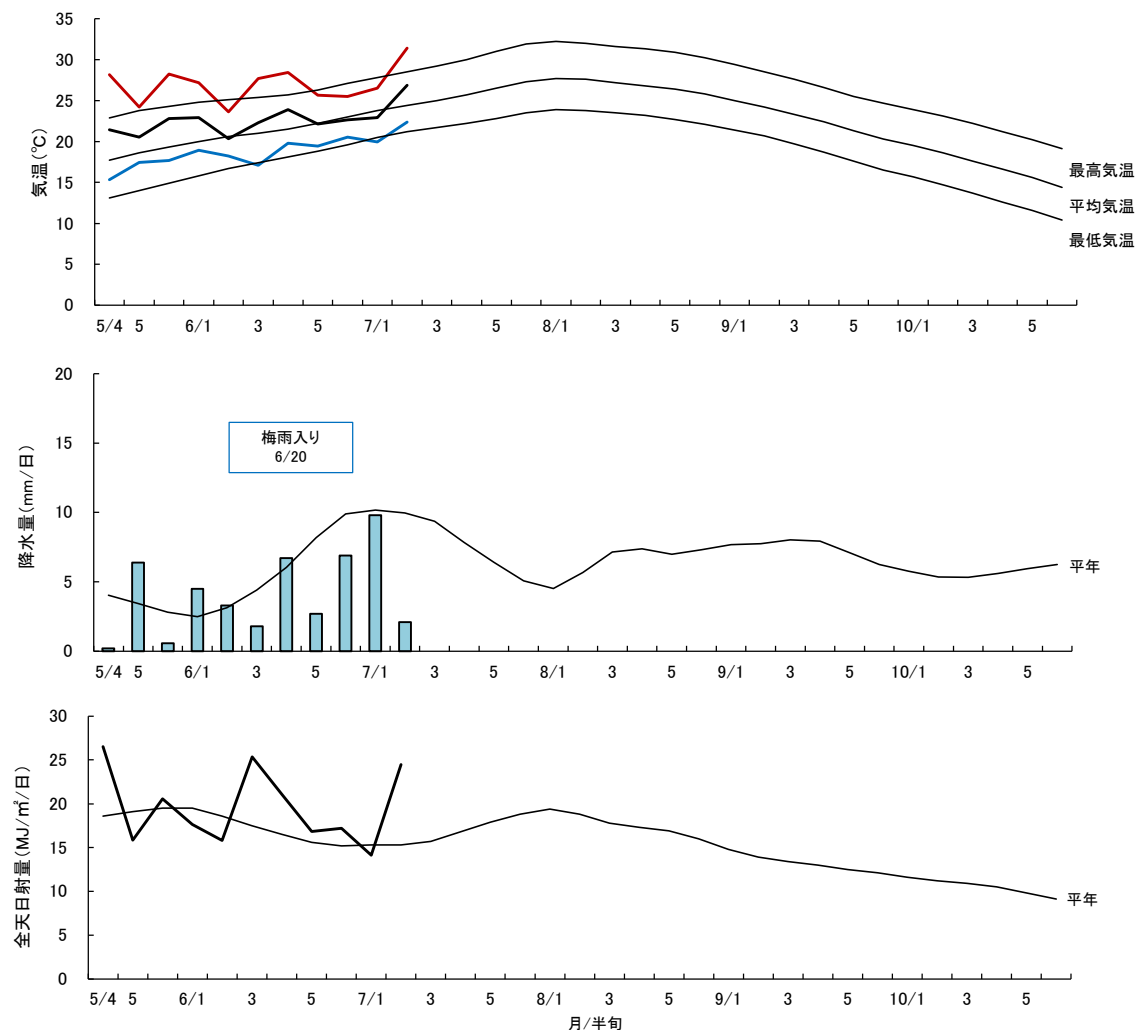


図1 令和8年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育経過（生育観測ほデータ）

（１）エンレイ（単作）

近年に比べ、主茎長は短く、本葉葉数は0.9葉少なく、一次分枝数は並となっている。

5月末に播種された一部のほ場では、開花期を迎えている。

（２）エンレイ（麦あと）

近年に比べ、主茎長はやや短く、本葉葉数は並、一次分枝数は0.3本少なくなっている。

（３）シュウレイ

平年に比べ、主茎長は長く、本葉葉数は0.3葉多く、一次分枝数は並となっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月15日現在）

品種	年次	播種日 (月/日)	栽植本数 (本/㎡)	培土(月/日)		主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	開花期 (月/日)
				1回目	2回目				
エンレイ	単作	R8	16.7	6月28日	—	43.5	7.8	0.7	—
		R7	16.7	6月25日	7月5日	53.9	9.7	0.5	7月17日
		近年	16.7	—	—	50.6	8.8	0.7	7月18日
		近年比・差	3	100	—	86	-0.9	0.0	—
	麦あと	R8	17.2	7月1日	7月9日	39.0	7.8	0.4	—
		R7	16.1	7月2日	7月12日	38.5	7.9	0.8	7月23日
		近年	16.6	—	—	41.9	7.8	0.7	7月20日
		近年比・差	-1	103	—	93	0.0	-0.3	—
シュウレイ	R8	6月7日	16.4	7月8日	—	40.9	6.8	0.4	—
	R7	6月9日	11.7	7月1日	7月12日	37.4	7.2	0.8	7月24日
	平年	6月6日	14.8	—	—	36.8	6.5	0.4	7月22日
	平年比・差	1	111	—	—	111	0.3	0.0	—

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作2、麦あと1)

注2) 平年値はH28～R7、近年値はR2～7

注3) 平年比(近年比): 苗立本数・主茎長、平年差(近年差): 播種日・本葉葉数・一次分枝数

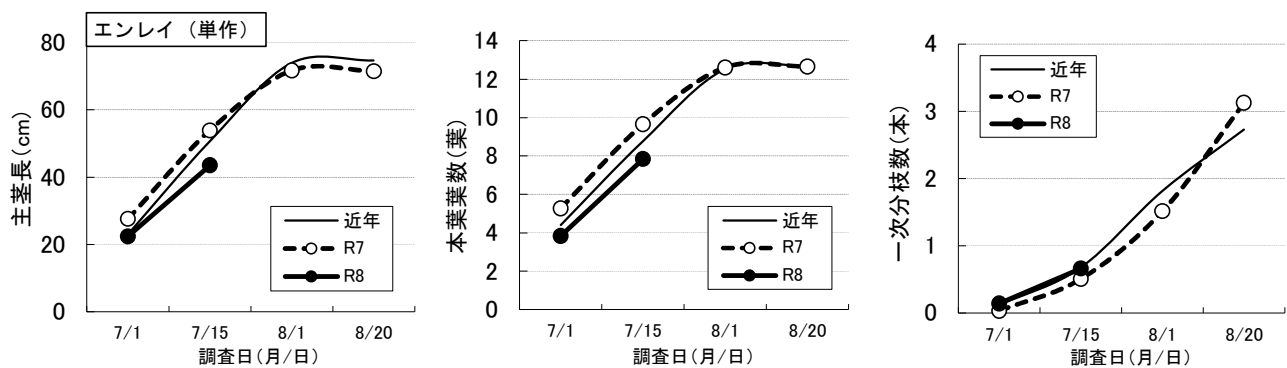


図2 単作エンレイの生育の推移

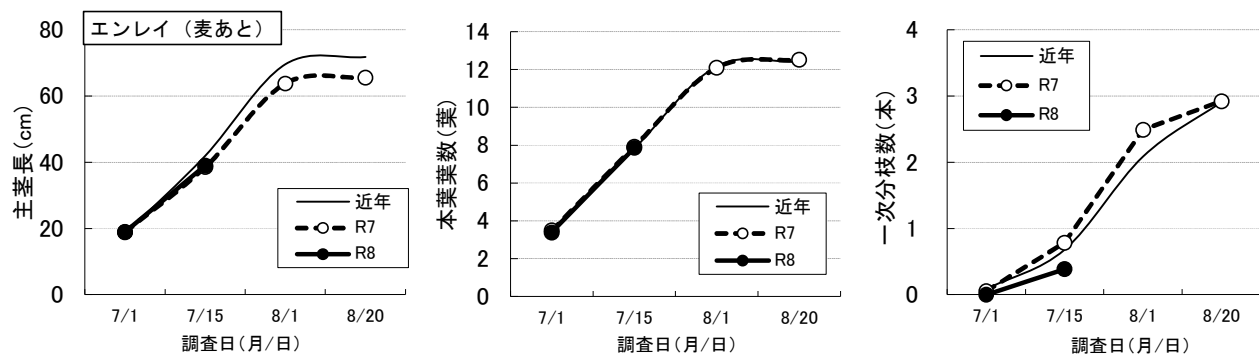


図3 麦あとエンレイの生育の推移

3 当面の技術対策

- ・ほ場内の水が停滞しないように排水口の点検や溝の手直し等を行い、排水対策を徹底する。
- ・2回培土が完了していないほ場は、速やかに実施する。
- ・今後も高温が予報されているため、開花期頃から9月上旬頃まで晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施する。

(1) 排水対策

- ・湿害の回避及び速やかな培土作業の実施に加えて、畦間かん水時の排水を滞りなく実施するために、ほ場内の水が停滞しないように排水溝の連結等の排水対策を徹底する。

(2) 培土

- ・生育量の確保と雑草の発生を抑制するため、培土が完了していないほ場では速やかに実施する。
- ・株元まで確実に土寄せを行い、培土の効果を高める。
- ・ほ場内に水が停滞しないように、培土でできた溝を額縁排水溝や深く掘り下げた排水口にしっかり連結する。



排水を促すだけでなく、開花期以降の畦間かん水の入排水をスムーズにするため、しっかりと溝を連結し、確実に排水口につなぐ。

図4 排水促進に向けた畦間と額縁排水溝の連結

(3) 畦間かん水

- ・畦間かん水は、収量の確保（英数確保・百粒重の増加）、品質の向上（しわ粒や英ずれ粒の発生軽減）、青立ち防止につながることから、開花期頃から9月上旬頃まで晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に実施する。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉めて速やかに排水する。
- ・用水が下流域まで行き渡るように、地域での計画的かつ効率的な水利用に努める。

【畦間かん水の効果】

1 収量の確保

- (1)英数の確保: 落花・落英の防止(青立ちの発生防止)
- (2)百粒重の増加: 根の養水分吸収量の増加、光合成の促進
根粒による窒素固定能の維持

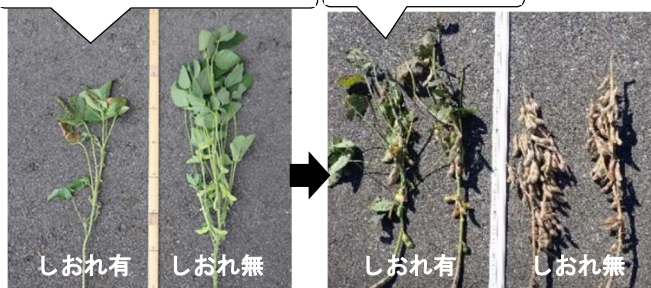
2 品質の向上

- ・ちりめんじわ粒の発生防止
- ・英ずれ粒(高温に伴う物理的損傷)の発生防止



水不足で落花・落英し英数が少ない

英が少なく青立ち



英伸長期

成熟期

図5 開花期以降の水不足により落花・落英した大豆 (R5 現地ほ場)

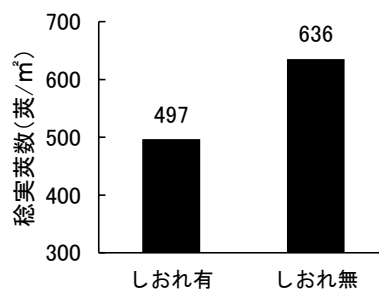
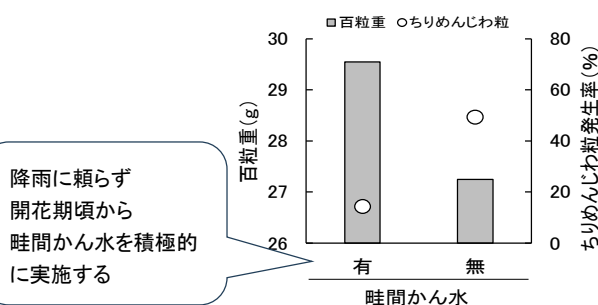


図6 開花期以降の水不足が英数に及ぼす影響 (R5 現地ほ場、成熟期調査)

注) 開花期翌日～8月下旬までの降水量: 37 mm



降雨に頼らず
開花期頃から
畦間かん水を積極的
に実施する

図7 畦間かん水の有無が百粒重及びしわ粒の発生に及ぼす影響 (H24 富山農振セ)

注) 畦間かん水有: 8/4、8/20 (いずれも少雨期間) の2回実施

(4) 病害虫防除

ア 黒根腐病

- ・過去に多発したほ場では被害が大きくなる。また、土壌水分が高い場合は早期から発病する。
- ・有効な薬剤がないため、特に常発地では排水対策を徹底する。

イ 葉焼病

- ・7月中下旬頃から発生し、強風雨で蔓延する。多発すると収量・品質が低下する。
- ・蔓延防止には発生初期の防除が有効であるため、ほ場を巡回し、発生を確認した場合は速やかに「Zボルドー」等で防除する。
- ・特に、シュウレイは発病しやすいため、7月中下旬頃に防除を行う。



図8 葉焼病

ウ ウコンノメイガ

- ・生育の旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発する傾向がある。
- ・7月6半旬に幼虫による葉巻を確認し、1株当たり平均6個以上の葉巻があれば、速やかに防除を実施する。

エ ハダニ類

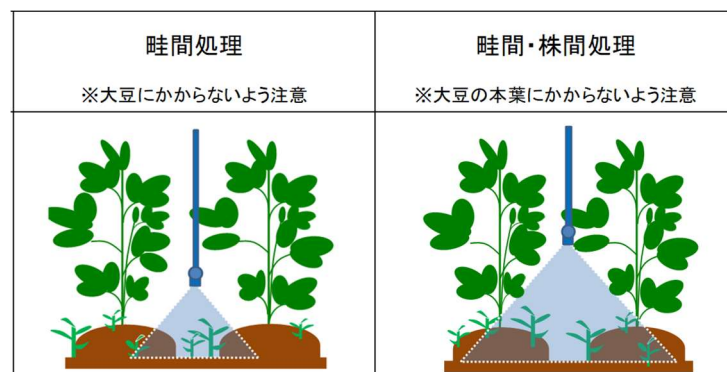
- ・高温・乾燥で多発する傾向がある。多発すると粒が小粒化し減収する傾向があるため、8月上～中旬にハダニによる葉の黄化がほ場の1割程度みられる場合は、葉の裏に薬剤が十分かかるように速やかに「ニッソラン水和剤」等で防除を実施する。

(5) 雑草防除

- ・2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・大豆の生育が進むと株元の雑草への薬剤付着率が低下するため、茎葉処理剤の全面散布では、有効な茎葉処理剤を遅れず適期に散布する。
- ・難防除雑草（帰化雑草等）が発生するほ場では、草種に応じて防除効果の高い除草剤を散布する（参考表1、2）。
- ・畦畔や農道等、ほ場周辺で難防除雑草の発生がみられる地域では、開花・結実前に非選択性茎葉処理剤の散布や地際からの刈取り等の防除を行う。

【吊り下げの専用ノズルを使用する際のポイント】

- ・大豆や雑草の大きさ、処理方法によりノズルの高さや角度を調整する。
- ・雑草全体に除草剤が付着するように散布する。



(参考) 表 1 大豆の生育期処理除草剤

種類	対象 雑草	除草剤名	使用方法		使用時期	使用 回数	除草効果についての 留意点
選 択 性 除 草 剤	1年生 イネ科	ナブ乳剤	雑草茎葉 散布	全面散布	雑草生育期 3～5葉期 (但し、収穫30日前まで)	1回	・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。 ・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果 が期待できない。
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期 3～5葉期 (但し、収穫60日前まで)	1回	
		ポルトフロアブル			雑草生育期 3～10葉期 (但し、収穫30日前まで)	1回	
	1年生 広葉	大豆バサグラン 液剤		大豆2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (但し、収穫45日前まで)	1回	・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツ ユクサ科の雑草には効果が劣る。 ・イネ科雑草には効果がない。	
非 選 択 性 除 草 剤	1年生 雑草	ラウンドアップ マックスロード		畦間処理	雑草生育期 (但し、収穫前日まで)	2回	・非選択性除草剤なので、大豆にかか らないように十分注意する。
		ザクサ液剤			雑草生育期 (但し、収穫28日前まで)	バスタ および ザクサ 3回 以内	
		バスタ液剤	畦間・株間 処理	雑草生育期 株間処理は5葉期以降 (但し、収穫28日前まで)	1回		
		ロロックス		雑草茎葉 兼 土壌散布		大豆3葉期以降 雑草生育期 (草丈15cm以下) (但し、収穫30日前まで)	

(参考) 表 2 難防除雑草(帰化雑草等)に対する除草効果(目安)

草種	茎葉処理剤				茎葉兼土壌処理剤
	選択性	非選択性			
	大豆 バサグラン液剤	ラウンドアップ マックスロード	ザクサ液剤	バスタ液剤	ロロックス
	全面散布	畦間処理	畦間処理	畦間処理 株間処理	畦間処理 株間処理
帰化アサガオ類	▲(種間差あり)	▲	○	○	▲(種間差あり)
ヒユ類	▲(種間差あり)	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲(種間差あり)	○	○	○	○

注1) ○: 効果が高い、▲: 効果が劣る

注2) 登録内容(適用、使用方法等)を確認して使用する。また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように散布する。